

ASHBi First Contact Program

Researchers' Co-Learning Community @KRP #10

Recovery from brain & spinal cord injury



麻痺した指が再び動く ～脳の驚きのリカバリー戦略～



京都大学 大学院医学研究科/高等研究院 ヒト生物学高等研究拠点(WPI-ASHBi)

山口 玲欧奈 助教

<参加者へのメッセージ>

我々は手指を器用に動かすことで、スマートフォンを操作したり、楽器を演奏することができます。しかし、脳や脊髄を損傷すると、運動機能が低下し、運動麻痺が生じます。近年、我々の研究から運動機能の回復には脳が大きく関係していることが明らかになり、脳を通じた治療戦略を目指しています。今回は、これまで得られた知見と治療への応用について議論させて頂ければと存じます。

2024.10.03 (Thu) **16:00-17:30** (@KRP)

本セミナーは、京都大学高等研究院 ヒト生物学高等研究拠点 (WPI-ASHBi)が実施するFirst Contact Programの一環として、京都市リサーチパーク(株)と共に開催する Researchers' Co-Learning Community @KRP (ReCoCo@KRP) として実施いたします。

First Contact Programについてのお問合せ

京都大学高等研究院ヒト生物学高等研究拠点 (WPI-ASHBi)

Research Acceleration Unit

TEL: 075-753-9880

E-mail: ashbi-acceleration@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp



◆山口先生へのショートインタビュー

Q:先生はどんな研究をされていますか？

A: 脊髄損傷からの運動機能回復に関わる身体のメカニズムについて研究しています。

Q:先生はなぜそのような研究をしようと思われたのですか？

A: 高校生の時にしていた柔道を通じてリハビリテーションに興味を持ったのがきっかけです。

Q:その研究によって(今までにない)どんな面白いことができる・分かるようになりますか？

A: 運動機能を回復させるために、普段は関係ないと考えられている部位が貢献することが明らかになっています。このような現象はさまざまな疾患の治療にも役立つと考えられます。 明

Q:研究のご紹介を通じて、参加者の皆さんとどのような議論をしたいと思いますか？

A: 脳を通じた研究は、医療分野だけではなく、さまざまな分野への波及効果があると考えています。皆様と自由に活発な議論ができることを楽しみにしています 考

【略歴】

2016年鹿児島大学大学院理工学研究科 博士後期課程修了。2016-2017年ワシントン大学においてポスドク。2017-2019年京都大学大学院医学研究科特定助教。2019年より京都大学高等研究院 ヒト生物学高等研究拠点(WPI-ASHBi) 特定助教。2024年より現職。

【参考】[ASHBi website](#)

◆京都大学高等研究院 ヒト生物学高等研究拠点 (ASHBi)

京都大学高等研究院ヒト生物学高等研究拠点 (ASHBi) は、世界から第一線の研究者が集まる「目に見える研究拠点」を形成し、日本の科学技術水準を維持・向上させていくことを目的とした、文部科学省の世界トップレベル研究拠点プログラム (以下、WPI) の拠点として2018年に設立されました。ASHBiでは、拠点長の斎藤通紀を中心に、国内外から優れた17名の主任研究者 (PI) を集め、我々ヒトに付与された特性の獲得機構とその破綻による病態発症の原理を究明する目的のもと、新しいヒト生物学の創成を目指した研究を行っています。

また、ASHBiでは、最先端の実験機器の整備やオープンで国際的な研究環境の構築に加え、若手や海外研究者の研究力強化へ繋げる研究支援を目的とし、リサーチアクセラレーションユニットを設置しています。本ユニットでは研究者の個別支援に加え、ファーストコンタクトプログラムを始めとした様々な研究者育成プログラムの企画・運営を行っております。



◆ファーストコンタクトプログラム

ASHBiが実施する「ファーストコンタクトプログラム」は、研究の最前線で活躍する准教授～ポスドククラスの若手研究者がアカデミアの研究を紹介し、企業の研究開発の最前線で活躍する中堅・若手研究者が社会実装や事業視点からのフィードバックを提供、その活発な双方向の議論の中から新しい気付きや刺激を得る、ということを目指した知識交流セミナープログラムです。